

子どもたちの資質能力の育成をめざして つながり、深める“チーム北池田”の取組み

和泉市立北池田小学校



Why

なぜ取組みを進める必要があったのか（実態・背景）

- 国語科では、児童の「目的や意図に応じて、複数の資料から自分の考えをもち、表現する力」に課題が見られた。
- 児童の資質能力を育成するために、学校全体の授業改善を進める必要があった。

How

どのように取組みを進めたか（取組みの概要）

- 学習指導要領に示されている「国語で正確に理解し、適切に表現する資質能力の育成」「言語活動を通して」に着目し、「目的や意図に応じて、複数の資料から自分の考えを持ち、表現する」資質能力の育成のために校内研究のテーマを【単元全体を通した言語活動】と設定した。
- P D C Aサイクルの確立を通して、校内研究体制の充実を図った。
- 校内の人的資源を活用し、研究授業の時だけでなく日々の授業においても授業改善の視点に基づいた単元づくりを実施した。
- 本校の国語科の研究を活かし、他の教科でも国語科で付けた力を活かすような学習を計画した。

Change

どのように変容したか（学校・保護者・地域等）

- 教員が校内研究の意義を理解し、子どもたちの姿を通して効果を実感することで、すべての学級で授業改善の視点に基づいた授業を積み重ねることができた。
- 大阪府力だめしプリントの記述問題の正答率が上がり、無解答率が下がった。
- 子どもたちの中に、国語科で付けた力を肯定的にとらえる姿が見られた。



子どもたちの資質能力の育成をめざしてつながり、深める“チーム北池田”の取組み

和泉市立北池田小学校

1. 令和元年度の取組み

- (1) 研究テーマ「『単元全体を通した言語活動』を通して、『目的や意図に応じて、複数の資料から自分の考えを持ち、表現する』資質能力の育成」
- (2) 取組み内容 【校内研究体制の充実（P D C Aサイクルの確立）】
- (3) 取組み内容 【校内の人的資源の活用】
- (4) 令和元年度の調査研究の結果明らかとなった成果と課題
- (5) 令和2年度に向けて

2. 令和2年度の取組み

- (1) 研究テーマ 「進んで対話し、自分の考えや思いを持ち、豊かに表現する子どもの育成」
- (2) 取組み内容【国語科を要とした教科横断的な単元・授業の提案】
- (3) 2年間の調査研究の結果明らかとなった成果と課題
- (4) 今後の見通し

1. 令和元年度の取組み

(1) 研究テーマ『単元全体を通した言語活動』を通して、
『目的や意図に応じて、複数の資料から自分の考えを持ち、表現する』資質能力の育成

これまでの研究を生かす北池スタンダード

＜研究テーマ設定までの経緯＞

学校教育目標「対話する子」に向かって、これまで様々な研究テーマのもと取組みを進めてきた。

取組みの成果もあり、定量的な評価（児童アンケート）において、「めあて・ふり返り」や「ペア・グループ交流」に関する項目において、肯定的な評価が95%以上となり、日々の授業においても定着（北池スタンダード）が見られた。

しかし、全国学力・学習状況調査を基にした定量的な評価においては、国語科、特に「目的や意図に応じて、複数の資料から自分の考えをもち、表現する力」に課題が見られた。交流はできるが、対話の質が高められていないという本校の課題とつながる結果となった。

北池スタンダード		子どもの姿					
		反応あいうえお					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
話す聞く		ききかた上手のあいうえお ・進んで話したり聞いたりしようとする ・行動したことや経験したことに基づいて、事柄の順序を考えながら話す ・話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを落とさないように聞き、話の内容を捉えて感想をもつ ・互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐ		はなしかた上手のかききけ ・相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話す ・必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつ ・目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、共通点や相違点に着目して、考えをまとめる		・話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど構成を考え、話す【資料を活用するなど、自分の考えが伝わるよう表現を工夫する】 ・話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、考えを比較しながら聞き、自分の考えをまとめる ・互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたり深めたりする	
ペア・グループ		ペア ペア対話を使って、進んで話したり 意見を述べたり、相談したりできる。 (話し方上手・反応あいうえおなど、基本を身につける)		ペア・グループ ペア対話やグループ対話を使って、考えの共通点や相違点に着目し、考えを広げたり、深めたりすることができる。			
授業形態							
ふり返り		<ul style="list-style-type: none"> 記号の色ぬり 時期を見て 気持ち記号 付けたし文 <p>文章表記のふりかえり</p> <p>単元の中で、一単位時間のねらい・役割 → ふり返り → めあて ・ふり返りを通じて、何を見とるのか。指導者が、一単位時間のゴールを明確にする。(どのようなふり返りがゴールの姿なのか明確にする。) ・一単位時間内でも、逆向き設計。ゴールの姿から、意図を持っためあてを設定する。 ・【ふり返りで使う言葉を指定、書き出しの言葉を指定、何について書くのか指定するなど、子どもたちにも明確に示す】</p>					

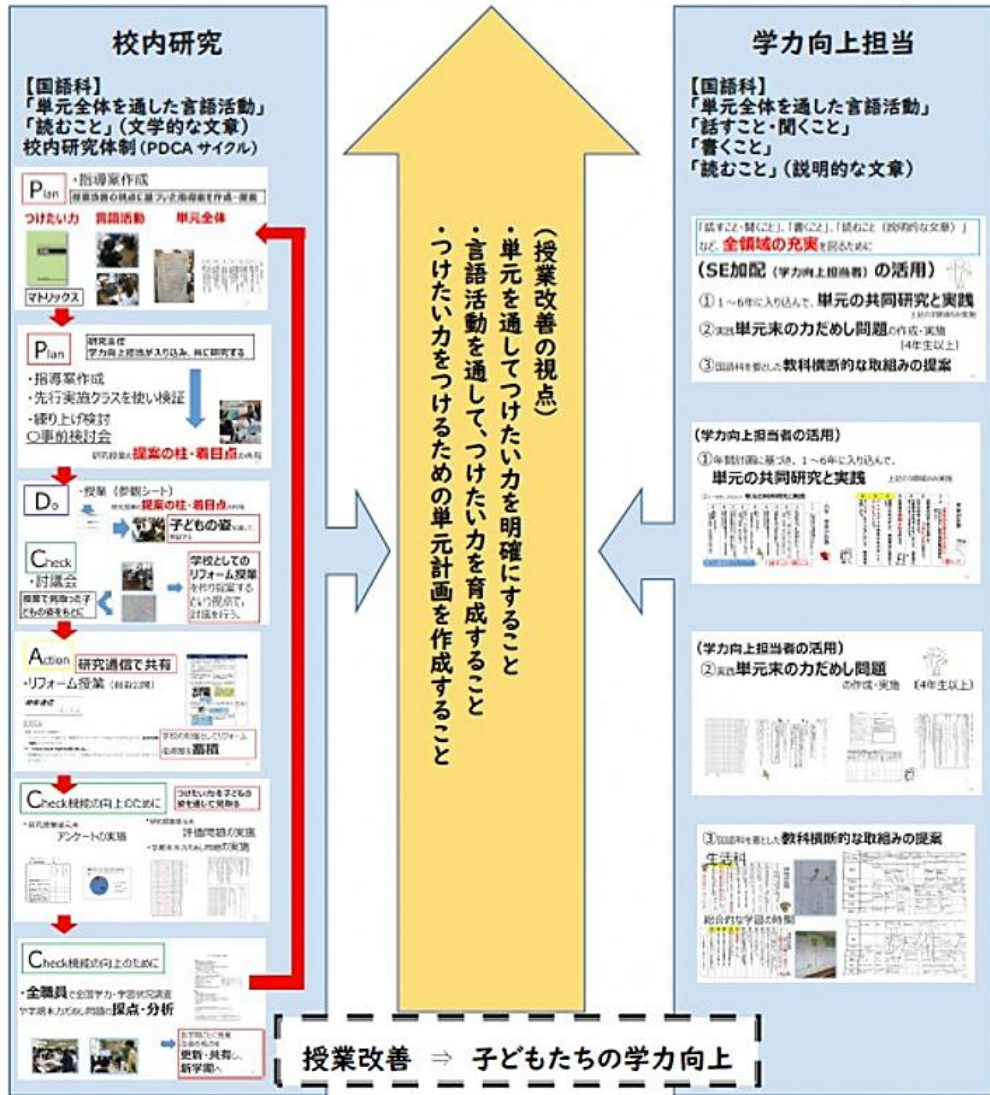
- ホワイトボードの活用
- ペア・グループの活用
- 国語辞典の活用

・ねらいを明確にした活用「なぜ(そのタイミングで、その時間で、その内容で)活用後のゴールの姿を明確にする。→子どもたちと共有する。」

・個人で自由に使える環境。(個人持ち、つくえ横にかけるとめです。)
→子どもたちの話量を増やし、活用する姿につなげる

学校教育目標 「対話する子」

「目的や意図に応じて、複数の資料から自分の考えをもち、表現する資質・能力」の育成



これらの結果や学習指導要領国語科の目標で示されている「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力の育成」、「言語活動を通して」に着目し、令和元年度の本研究テーマを【単元全体を通した言語活動を通して、「目的や意図に応じて、複数の資料から自分の考えをもち、表現する資質・能力」の育成】と設定した。

研究テーマに向かって、本校として、国語科の授業改善の視点として

- ① 単元を通してつきたい力を明確にすること
- ② 言語活動を通して、つきたい力を育成すること
- ③ つきたい力を付けるための単元計画を作成すること

の3つを全教員で共有し、学校全体で授業改善を進めるために、

- ・校内研究体制の充実 (PDCAサイクルの確立)
- ・校内の人的資源の活用

を、取組みの柱とした。

（２） 取組み内容 【校内研究体制の充実（P D C Aサイクルの確立）】

子どもたちにめざす資質・能力を育成するために、校内研究体制の充実を図った。

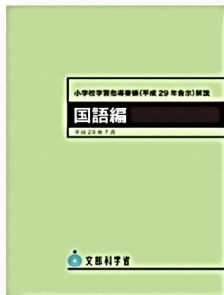
特に、研究授業（全学年実施）の取組みを通して、指導案検討・事前検討・研究授業（提案授業）・研究討議・リフォーム授業というPDCAサイクルの中で、検討・検証していく体制を確立し、教員一人ひとりの授業力を高め、児童の資質能力を高めることをめざした。

Plan

・指導案作成

授業改善の視点に基づいた指導案を作成・提案

つきたい力

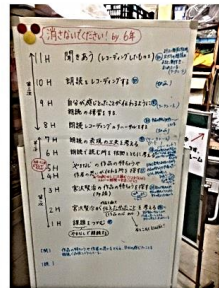


マトリックス

言語活動



単元全体



★	⑧	⑦⑥	⑤	④	③	②	①	五年 学習計画
								① 学年の目標を定め、各単元の目標を設定する。 ② 各単元の目標を達成するために、どのような学習活動を行うかを計画する。 ③ 各単元の目標を達成するために、どのような教材・資料を使用するかを計画する。 ④ 各単元の目標を達成するために、どのような評価方法を使用するかを計画する。 ⑤ 各単元の目標を達成するために、どのような学習活動を計画するかを計画する。 ⑥ 各単元の目標を達成するために、どのような教材・資料を使用するかを計画する。 ⑦ 各単元の目標を達成するために、どのような評価方法を使用するかを計画する。 ⑧ 各単元の目標を達成するために、どのような学習活動を計画するかを計画する。

【Plan】

○指導案作成

P.4の3つの授業改善の視点に基づいて、指導案を作成した。とくに、つきたい力を設定する際には、新学習指導要領を根拠として、1年間を俯瞰して適切なつきたい力を設定することを大切にした。

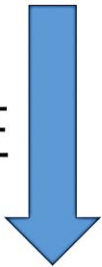
（マトリックスシートを活用）

また、授業改善の視点の定着を図るために、研究を学年任せにせず、指導案の作成、先行実施クラスによる検証、指導案の練り上げの全てに研究主任と学力向上担当者が入り込み、学年と共に研究を進めた。

Plan

研究主任
学力向上担当が入り込み、共に研究する

- ・指導案作成
- ・先行実施クラスを使い検証
- ・練り上げ検討
- 事前検討会



研究授業の**提案の柱・着目点**の共有

【Plan】

○事前検討会

教員一人ひとりが指導案を読み、事前検討会に臨むようにした。検討会で、お互いに質問を重ねることにより、単元全体のつながりや本時のねらいについて共通理解を深めることができ、明確な着目点やめあてをもち、研究授業を参観することができた。

Do

・授業（参観シート）
研究授業の**提案の柱・着目点**の共有



提案参観コメントカード

授業について	指導案の提案の柱や着目点について	授業について
学習形態	学習形態の提案について、授業の提案や着目点について	児童について
学びについて	子どもの姿について(参観する児童の様子)	コメント



子どもの姿を通して、
検証する

【Do】

○研究授業

参観シートを活用することにより、研究授業の提案の柱や着目点を、全教員で共有し、同じ視点で子どもの姿を見取ることができた。

Check

・討議会

授業で見取った子どもの姿をもとに



学校としての
リフォーム授業
を作り提案する
という視点で、討
議を行う。

【Check】

○研究討議会

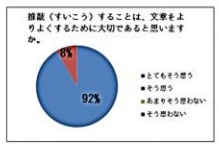
討議会が、全教員にとって自分事となるように、ゴールを「北池田小学校として、よりよいリフォーム授業を作ること」とし、全教員で見取った子どもの姿を基に討議してリフォーム授業案を作成した。

Check機能の向上のために

つきたい力を子どもの姿を通して見取る

- ・研究授業単元末 アンケートの作成・実施
- ・研究授業単元末 評価問題の作成・実施
- ・市作成力だめし問題の実施

項目	実施状況	備考
1. 研究授業単元末アンケートの作成・実施	○	
2. 研究授業単元末評価問題の作成・実施	○	
3. 市作成力だめし問題の実施	○	



項目	実施状況	備考
1. 研究授業単元末アンケートの作成・実施	○	
2. 研究授業単元末評価問題の作成・実施	○	
3. 市作成力だめし問題の実施	○	

項目	実施状況	備考
1. 研究授業単元末アンケートの作成・実施	○	
2. 研究授業単元末評価問題の作成・実施	○	
3. 市作成力だめし問題の実施	○	

○Check機能充実のために

- ・研究授業単元末児童アンケート、評価問題の作成・実施。（4年生以上）
- ・全教員で全国学力・学習状況調査や学期末力だめし問題（4年生以上）の採点、分析。

を行った。上記の取組みにより、定性的・定量的な評価から、子どもたちの姿を通して取組みを即座にふり返り、全教員が学期ごとに授業改善の視点を更新・共有した。

Action

研究通信で共有

・リフォーム授業（自由公開）

研修通信

№.5 元月 5日
平成31年 1月 25日

2年生から

3組（リフォーム授業）

- ・センテンスカードを使った。黒板のセンテンスカードはなかった方がよかった。自分の言葉で語ることができていた。
- ⇒ つきたい力とのつながりを常に考える。
- ・時間配分についてはセンテンスカードを個人で並ぶようにしたので、ふりかえりを書くことができた。

研修	主として研修者	研修上の保護者
10	○授業で使用するプリントを事前に子どもたちに渡して授業開始前までに読ませる。授業開始後、黒板に「自分の言葉で語る」を提示し、児童が自由に発言できるようにする。	○授業で使用するプリントを事前に子どもたちに渡して授業開始前までに読ませる。授業開始後、黒板に「自分の言葉で語る」を提示し、児童が自由に発言できるようにする。
11	○自分の言葉で語るプリントを事前に子どもたちに渡して授業開始前までに読ませる。授業開始後、黒板に「自分の言葉で語る」を提示し、児童が自由に発言できるようにする。	○自分の言葉で語るプリントを事前に子どもたちに渡して授業開始前までに読ませる。授業開始後、黒板に「自分の言葉で語る」を提示し、児童が自由に発言できるようにする。
12	○自分の言葉で語るプリントを事前に子どもたちに渡して授業開始前までに読ませる。授業開始後、黒板に「自分の言葉で語る」を提示し、児童が自由に発言できるようにする。	○自分の言葉で語るプリントを事前に子どもたちに渡して授業開始前までに読ませる。授業開始後、黒板に「自分の言葉で語る」を提示し、児童が自由に発言できるようにする。
13	○自分の言葉で語るプリントを事前に子どもたちに渡して授業開始前までに読ませる。授業開始後、黒板に「自分の言葉で語る」を提示し、児童が自由に発言できるようにする。	○自分の言葉で語るプリントを事前に子どもたちに渡して授業開始前までに読ませる。授業開始後、黒板に「自分の言葉で語る」を提示し、児童が自由に発言できるようにする。
14	○自分の言葉で語るプリントを事前に子どもたちに渡して授業開始前までに読ませる。授業開始後、黒板に「自分の言葉で語る」を提示し、児童が自由に発言できるようにする。	○自分の言葉で語るプリントを事前に子どもたちに渡して授業開始前までに読ませる。授業開始後、黒板に「自分の言葉で語る」を提示し、児童が自由に発言できるようにする。
15	○自分の言葉で語るプリントを事前に子どもたちに渡して授業開始前までに読ませる。授業開始後、黒板に「自分の言葉で語る」を提示し、児童が自由に発言できるようにする。	○自分の言葉で語るプリントを事前に子どもたちに渡して授業開始前までに読ませる。授業開始後、黒板に「自分の言葉で語る」を提示し、児童が自由に発言できるようにする。

【Action】

○リフォーム授業の実施

リフォーム授業案を使って授業公開を行い、自由に参観できるようにした。リフォーム授業について、研究通信で成果と課題を発信し、全教員で共有するとともに、リフォームした単元指導案は、データとして蓄積、活用できるようにしている。

以上のような流れで、PDCAサイクルを短い期間で回し続けるように取り組んだ。

- P (plan)の段階で、子どもたちにつきたい力、そのための手立て等をじっくり話し合えたので、単元に関わる教員がお互いに共通理解することができた。そのため、先行クラスの授業を同じ視点で見て、次の手立てを考えることができた。
- 研究討議会では、その視点をもとに、他の先生方からの意見をもらったので、見方・考え方が広がり、リフォーム授業につなげることができた。
- 自分にはない教材研究や教材の読み方を他の先生にあたえてもらったことや、研究討議会の際に「自分ならこうする」というリフォームの視点で他の先生が話してくれたことが良かったです。子どもたち自身が「教科書を学ぶ」より「教科書で学ぶ」ことをわかっていると感じた。
- 単元末問題やアンケートで成果や課題が把握できた。
- リフォーム授業を考え、実践することで子どもたちへの課題設定の難易度もふり返られるようになった。そのため、どの授業においても難しすぎたり簡単すぎるようなことが減ってきたように思う。
- 授業で意欲的に取り組む児童の姿をよくみられるようになった。

(教員対象 校内研修のふりかえりより)

(3) 取組み内容【校内の人的資源の活用】

取組みを進めるにあたって、校内研究時だけでなく日々の授業においても、授業改善の3つの視点（P.4）に基づいた単元づくりができるようにすることが大切であると考え、学力向上担当者が中心となり、次のような取組みを進めた。

(学力向上担当者の活用)

① 年間計画に基づき、1～6年に入り込んで、**単元の共同研究と実践**、校内研究で扱う「読むこと（文学的な文章）」以外の3領域のみ実施



○単元の共同研究と実践

4月に作成した年間計画に基づき、学力向上担当者がすべての学年に入り込み、それぞれの学年教員と単元の共同研究、授業公開を行った。

1学期は、学力向上担当者がT1として、授業改善の視点を取り入れた授業を提案・公開し、2学期からは、担任がT1、学力向上担当者がT2となる機会も取り入れながら、授業改善を進めた。

① 1～6年に入り込んで、単元の共同研究と実践

⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	テーマ 「めざせ！討論の達人！」 読解力をめざせ、討論を上手に行なう。	六年 学習の計画
「動植物の動物は、野の動物より好きである」	めざせ！討論の達人！ 「藤野先生」	相手の主張や質問を予想して、自分の主張の読解力を高めよう。	相手の主張や質問を予想して、自分の主張の読解力を高めよう。	相手の主張や質問を予想して、自分の主張の読解力を高めよう。	相手の主張や質問を予想して、自分の主張の読解力を高めよう。	相手の主張や質問を予想して、自分の主張の読解力を高めよう。	相手の主張や質問を予想して、自分の主張の読解力を高めよう。	相手の主張や質問を予想して、自分の主張の読解力を高めよう。		

討論の前に、読解力を高めるために、どんどん自分で読みよくなる情報を集めるべし！

「話すこと・聞くこと」



⑥	⑤	④	③	②	①	テーマ 「来年度の五年生のために、 わかりやすい委員会活動報告書を書こう」	学習の計画 「書くこと」
すいこうしたことをいかして、報告書を清書しよう。	すいこうしたことをいかして、報告書を清書しよう。	構成メモをいかして、報告書の下書きをしよう。	報告書の構成メモを作ろう。	活動報告の取材メモをいかして、報告書に書くべきことを考えよう。	自分のめあてをもとう。 つけたい力を知ろう。	報告書の内容と単元を通して	



(学力向上担当者の活用)



②実践 単元末の力だめし問題・アンケート の作成・実施 (4年生以上)

○単元末力だめし問題・アンケート実施

短い期間で、効果を定量的・定性的に見取り検証する経験を積み、教員一人ひとりの子どもたちの姿を見取る力の向上をめざし、共同研究した単元（4年生以上）で、学力向上担当者が学年教員と協力して単元末力だめし問題・アンケートを作成し実施した。



4年生アンケート



6年生アンケート



5年生問題用紙



5年生解答用紙

○国語科を要とした教科横断的な取組みの提案

国語科を要とした教科横断的な視点を広げられるよう、単元を提案・公開した。また、グランドデザインの作成、見直しを図った。

③国語科を要とした教科横断的な取組みの提案

生活科

「おうちのひと」ほろこくしゅ

⑧	しっかりとよみかえて、かんざつ名人のかんざつをうけとる。
⑦	やさしいかんざつづくりのくわしい
⑥	かんざつ名人のかんざつづくりのくわしい
⑤	かんざつ名人のかんざつづくりのくわしい
④	かんざつ名人のかんざつづくりのくわしい
③	かんざつ名人のかんざつづくりのくわしい
②	かんざつ名人のかんざつづくりのくわしい
①	かんざつ名人のかんざつづくりのくわしい

学習の計画
テーマ「かんざつ名人」なるうー！
やさしいかんざつづくりのくわしい




総合的な学習の時間

「二年生」ほろこくしゅ

⑪	ほろこくしゅを鑑み合って、良さを鑑み合います。
⑩	二年生へのほろこくしゅを鑑み合います。
⑨	二年生へのほろこくしゅを鑑み合います。
⑧	二年生へのほろこくしゅを鑑み合います。
⑦	社会見学で、鑑み合います。
⑥	二年生へのほろこくしゅを鑑み合います。
⑤	二年生へのほろこくしゅを鑑み合います。
④	二年生へのほろこくしゅを鑑み合います。
③	二年生へのほろこくしゅを鑑み合います。
②	分けて、鑑み合います。
①	二年生へのほろこくしゅを鑑み合います。

学習の計画
テーマ「ほろこくしゅの達人」なるうー！
二年生へのほろこくしゅを鑑み合います。



行事(特活)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
総合	校外学習(クリンセンター) 土曜参観(道徳)	環境学習	新聞づくり	福祉学習				マラソン大会
外国語	ALTの自己紹介 Hello!	I like blue	like blue					
国語	白いぼうし	読美文(聴いて、えてまた動く)	一つの花	組み立てて書こう(4月3日)				
算数	折れ線グラフ	角の大きさ	縦横・平行	そろばん				
社会	ごみについて	水について	都道府県					
理科	春の自然(へちまひょうたん)	天気と気温(温度計・折れ線グラフ)	電気のはたらき	夏の自然				

行事(特活)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
総合	遠足(海遊館)	運動会	和泉市施設めぐり(郵便局、シティプラザ、図書館)	図書館出前授業	スーパー見学(7代、コーナー)	社会見学(白牛乳、他)	マラソン	
外国語	ALTの自己紹介 Hello!	How are you?	I like blue	like blue				
国語	よみかいて、じじいをつかまそう	自分たちのまのこを知り、知たことを考える(ワーク)	新聞にまとめる	新聞モラル(情報)				
算数	かけ算	長さ	大きい数の計算(筆算)	あまりのあるわり算				
社会	屋上から見えるまち	地図づくり	わたしたちの市のようす					
理科	身近な自然のかんざつたねまき	チョウを育てよう	植物の育ちとつくり	風やごみのはたらき				

＜グランドデザインの作成・見直しを通して＞

・グランドデザインを作ること是一年間の見通しだけでなく、教科と教科のつながりを“もっと見る”ために大切だと思います。

・振り返ってみて、もっと単元をつなげられたと思うところがたくさん見つけられました。4月はとても忙しいですが、カリマネの引継ぎの時間もしっかりと取るように心がけたいです。



(4) 令和元年度の調査研究の結果明らかとなった成果と課題

【成果】

○【校内研究体制の充実】という一つの柱ではなく、【校内の人的資源の活用】も合わせた2つの柱で取組みを進めた結果、校内に広く速く授業改善の視点が浸透した。全教員が同じベクトルで取組み、日々の授業を積み重ねることで、子どもたちの資質・能力の向上が見られた。

「大阪府力だめしプリント 記述問題（学校平均）」

	H30		H31
正答率	30%	⇒	39.7%
無解答率	17.3%	⇒	5.1%

○右図のとおり、教員が校内研究の意義を理解し、子どもたちの姿を通して効果を実感することで、すべての学級で授業改善の視点に基づいた授業を積み重ねることができ、子どもたちの資質・能力の向上につなげることができた。

教員アンケート どの学年でも、どのクラスでも

■ そう思う ■ まあまあそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない | 1学期

子どもの変容



取組みの共有



有意義な研究 効果的な討議



授業力・資質の向上



3 学期



【課題】

●「目的や意図に応じて、複数の資料から自分の考えをもち、表現する力」の向上は見られたが、日々の子どもたちの姿や定量的な評価（全国学力・学習状況調査等）から、「話すこと・聞くこと」の領域に課題が見られたり、「知識・技能」に課題が見られた。

●児童アンケートの肯定的回答が、

・「国語の授業でつけた力が、自分の考えを持つことやうまく伝えるために役立っている」（87%）

・「国語は好きですか」（55%）

という結果から、子どもたちの中に、国語科で付けた力を肯定的にとらえる姿がある一方で、国語科に対して主体的に取り組む姿に課題が見られた。

●令和元年度の実践事例は、データベースに保管し、学校としての財産となっている。

今後、さらに活用しやすいようにするために、保管の仕方や更新の仕方など、より使いやすい形を検討する必要がある。

(5) 令和2年度に向けて

令和元年度の研究をふり返し、次年度に繋げていくために以下の点について取組みを行った。

○次年度の指導案モデルの検討・作成

質の高い言語活動を実現するために、令和元年度後半から指導案に、次のような項目を記載した。
(次ページに続く)

・並行読書材について

どのような視点で並行読書材を選定したのか、並行読書材の特徴などを明記する。

・言語活動モデル

単元の言語活動をより具体的にイメージしやすいように、授業で児童に提示する言語活動モデルを指導案にも記載する。



言語活動の内容が伝わるように具体的に示す。

(例)

- ・どこで、どのようなことを表現させているのか
- ・どこで、どんな力を見取るのか など

並行読書材について

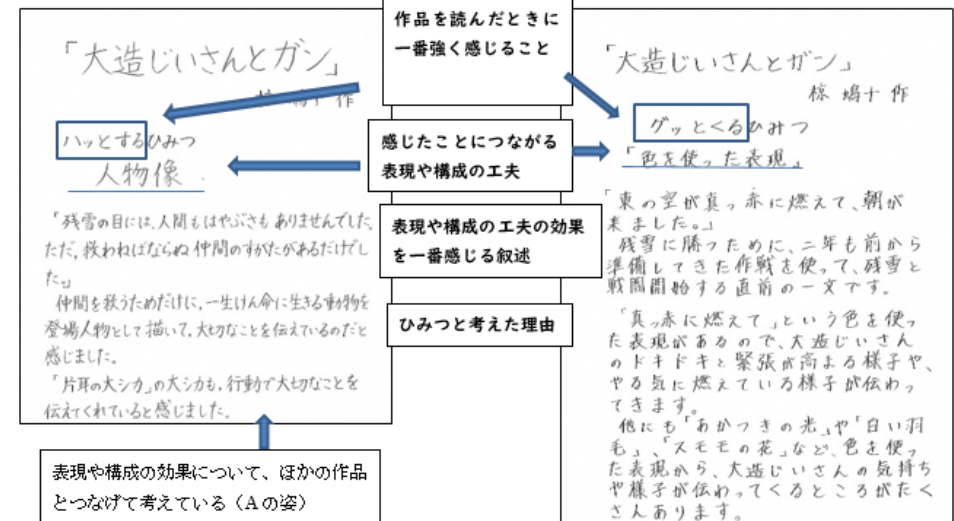
選書の着目ポイントや言語活動に関わる重点を示している。

○並行読書材

題名	読んだときに感じること	作品の特徴や児童が捉えそうな表現や構成の工夫
バンドのボンボン 青空バーベキュー	ウキウキ、わくわく	言葉のリズムが良く 楽しい雰囲気が伝わる
バンドのボンボン 夜空のスターチャウダー	ウキウキ、わくわく	
車夫	元気になる、すっきり	短編集、構成の工夫(結末)
なんにもしない一日	ほっこり、ほのぼの	2人の登場人物の日常の出来事を描いた作品 人物の関係の描かれ方がほのぼのする

言語活動モデル

○言語活動モデル



○本時の評価基準

- ・自分が選んだ本の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、読んだときに感じたことをまとめている。【C読むことエ】

具体的な子どもの姿

指導者の発問や声かけ

時間	主な学習活動	指導上の留意点	【観点】評価規準 (評価方法)
5	単元のゴールと今日のめあてを確認する。 自分の選んだ作品の〇〇のひみつを紹介しあう 自分が選んだ作品の疑問や聞きたいことを考えて交流し、自分なりの考えを持とう	・何のための一時間なのか、本時とゴールのつながりを意識させる。 単元のゴールでは何をしますか？	
5	自分が紹介したい作品を読んで、疑問や確かめたいことを考え、付箋を貼る。 【付箋を貼る視点】 ・どうして？(疑問) ・これって…(確かめたい)	・同じ作品を中心にグルーピングしておく。 ・疑問や聞きたいことが思い浮かびにくい児童が予想されるので、個人で学習する時間の配分に配慮する。	
10	疑問や聞きたいことが思い浮かばなかったら友達に聞いてみる 【思い浮かんでいない児童】 「どこに線をひいたの？」 「どうして？」 【疑問に対して自分の考えをもつ児童】 「それはこういうことじゃないかな」	・友達に聞いて疑問が生まれたら線を引いて付箋を貼るようにする。 ・交流の中で疑問に対する答えを見つけた場合は、付箋に書いてノートにはらせる。	
15	疑問や確かめてみたいことを交流して、自分なりの考えを持つ ・「どうしてこんなことしたんやろう？」 ・「自分はこう思っているんだけど、どうかな？」 ・「〇〇さんは、どう？」	・交流の状態によって、グループ以外の児童と交流させる場面も想定しておく。その際、目的に合わせて交流できるよう、だれがどの本を読んでいるのか、一目でわかるように名簿を掲示しておく。	
10	自分が紹介する作品を読んだときに感じたことをまとめる 「自分が選んだ作品は〇〇お話です。なぜなら～」	・作品を読んで感じたこととその理由を書くで、次時のひみつを探す活動につなげるようにする。 ・自分が選んだ作品の人物像や物語の全体を具体的に想像することができる 【読むこと エ】 (ノート)	

・具体的な子どもの姿

授業での児童の具体的な姿を想像し、単元計画や本時案の中に、予想される児童の姿を具体的に記入する。(左の指導案○囲みの部分)

リフォーム後の指導案には単元で児童が作成した成果物や単元のふり返り、単元後のアンケートの集計結果なども載せることにした。これを次年度の校内研究の指導案に生かせるように内容を検討し、次年度の指導案モデルの作成を行った。

○紹介シート

コンビニたそがれ堂 村山早社
ワクワクするひみつ
物語の構成

「たいじなさがしものがあるひとはかならずここでみつけれらるというのです」

さがしものがあるひとだけがたどりつけ、かならずさがしものが見つかる。そんなすごいコンビニに私もすぐワクワクしたからです。コンビニというものが、知らない間にたどりついてほしい仲間が見つかるのでそこが大好きなと感します。そこに注目して今度とコンビニにたそがれ堂を比べて読んで見てください。

児童が作成した成果物

○ 単元の振り返り

*この単元の学習を通して大切なことや学びについて振り返りを書きましょう。

本を読んだときは、物語の構成や音の表現などを、これからよく見ようと思います。

ひみつを見つける時は、その人物の言動に着目すると見つけやすいと感じました。物語をたどるだけではなく、くわしく読むと発見できたと感じました。

*この単元の学習を通して大切なことや学びについて振り返りを書きましょう。

この単元を通して、どうして、どうしてなのか、やみくもに目をつけて読めず、これからは、本の読み方が変わると感じました。

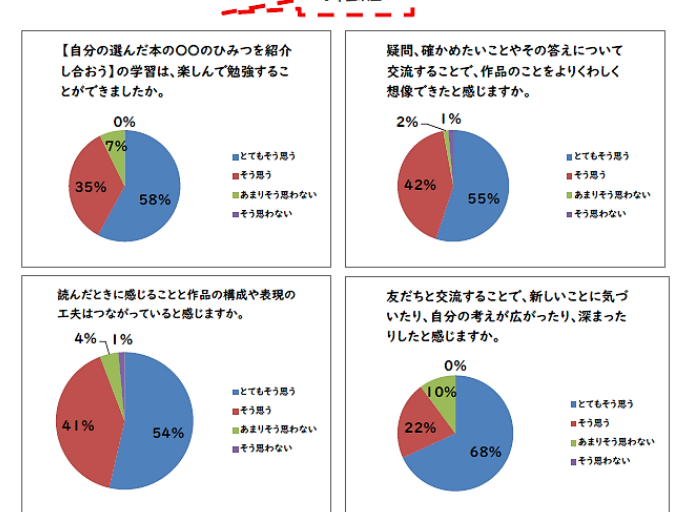
おは、ひつぎが見方があるのが、くわしく見方がありました、ことが分かりました。

*この単元の学習を通して大切なことや学びについて振り返りを書きましょう。

物語は、よくわくわく、おもしろく読み入ることもあったが、たつたの工夫がしつうと思えた。取組んで読むのがよかった感じました。

単元のふり返り

○ 単元末アンケート



単元末アンケートの結果

○次年度の教科横断的な取組みに向けてグランドデザインのふり返り・見直し

令和元年度最後の職員研修の際にグランドデザインのふり返りを以下の2つの視点で行った。

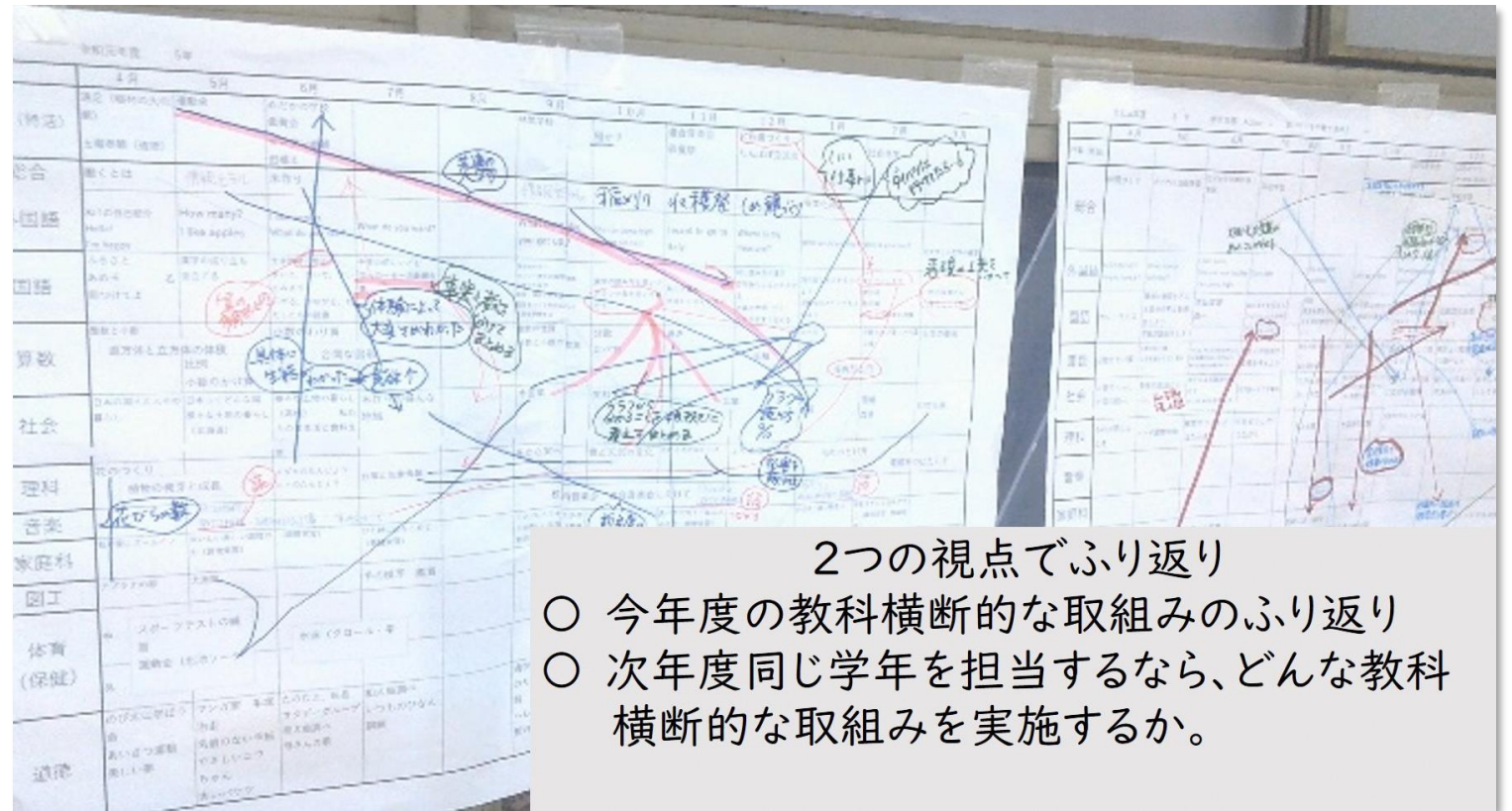
・今年度の教科横断的な取組みのふり返り

・次年度も同じ学年を担当するとしたらどのような教科横断的な取組みを実施するか

この視点でグランドデザインを見直し、次年度に引き継ぐために職員室内に掲示した。

その際、グランドデザインの見直しを行った各学年の教員の名前を模造紙に明記しておくことで、新年度に、昨年度その学年を担当した教員に取組み内容を質問しやすくなるように工夫した。

これらの取組みを令和元年度のうちにしておくことで、令和2年度の校内研究を見通すことができた。



○教科横断的な学習の指導案モデルの検討・作成

令和2年度は本校の国語科の研究を活かし、他の教科でも国語科で付けた力を活かすような教科横断的な学習の提案ができるように、令和元年度のうちに指導案のモデルを検討・作成した。

学習指導案（例）

和泉市立北池田小学校
指導者 ○○ ○○

○教科 ○○科

○【単元名】「教材名」【 】「○○」

○単元目標

- ～【学びに向かう力等】
- ～【思・判・表】
- ～【知・技】

○国語科とのつながり

- ・国語科のどの単元でつけた力とつなげているのか。
- ・具体的にどのような力として示すか。（児童に示すように）
- ・（仮説）つながりを活用することでねらっている効果や子どもの姿

○単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
・～【○○】	・～【○○】	・～【○○】

国語科ではなく、その教科の目標

国語科ではなく、その教科の評価基準

国語科を要とした教科横断的な学習の指導案モデルを作成

○本時 2次 第3時 (5/11) 単元の中で、一番おススメの時間
～する学習

○本時の目標
・～【 】

○本時の評価基準
・～【 】

時間	主な学習活動	指導上の留意点	【観点】評価規準 (評価方法)
5	単元のゴールと今日のめあてを確認する。 自分の選んだ作品の○○のひみつを紹介しよう	・何のための一時間なのか、本日のゴールのつながりを意識させる。 単元のゴールでは何をしますか？	
めあて			
5			
10			
15			
10			

○成果

- ・成果と課題は、実施した学期末の全体研で報告予定。

○課題

- ・仮説のふり返し（成果や課題の根拠となる子どもの姿（ふり返しや成果物など）があれば、添付をお願いします）
- ・指導案の保存先に、ワークシートなど一緒に保存していただくとありがたいです。

具体的な子どもの姿

指導者の発問や声かけ

2. 令和2年度の取組み

(1) 研究テーマ「進んで対話し、自分の考えや思いを持ち、豊かに表現する子どもの育成」

研究テーマ設定の経緯

前述のとおり、令和元年度の校内研究のP D C Aサイクルの充実や校内の人的資源の活用により「目的や意図に応じて、複数の資料から自分の考えを持ち、表現する資質・能力」の育成には一定の成果が見られた。

その一方で「知識・技能」の定着や豊かに表現する力（表現の質）については課題が見られたことから、令和2年度の研究テーマを上記のように定めた。また、昨年度の取組みを振り返る中で、国語科で付けた力を活かし、広げる機会を設定することにより、児童に国語科の力を定着させることが大切であるという課題も見えてきた。

そこで、今年度は、

- ①校内研究授業のP D C Aサイクルの充実による授業改善
- ②国語を要とした教科横断的な取組み・単元の提案

という2本の柱を取組みの中心とし、研究テーマ「進んで対話し、自分の考えや思いを持ち、豊かに表現する子どもの育成」の実現をめざすこととした。（次頁参照）

令和2年度 校内研究テーマ

【国語科】

進んで対話し、自分の考えや思いを持ち、 豊かに表現する子ども

の育成をめざして

今年度は、この両輪で挑戦！！

(国語科)「単元全体を通した言語活動」

○つけたいを見極めよう

○ねらいを実現するための言語活動を工夫しよう

○「大好き」「心に響く」などの意識(主体的な姿)を重視して、
子どもたちが**目的**をもって取り組む**学習過程**を工夫しよう

カリマネ (国語科を要とした教科横断的な取組み)

①国語科でつけた力を他の学習(や生活)で活用することで、【言葉の力】がより深く、汎用的に定着する(だろう。)

②国語科でつけた力を活用することで、言語活動の充実につながり、それぞれの教科特有の力のよりよい育成につながる(だろう) **これまで先生方が自然と行っていたことを見える化**

単元	学習目標	学習活動
1	自分の考えや思いを言葉で表現する。	話し合い、発表、書写
2	言葉の力を活用して、生活や学習で活用する。	読書、調べ学習、生活での実践
3	言葉の力を活用して、主体的に学習に取り組む。	グループ学習、発表、発表

これまでの北池田の積み重ね

どの学年でも、どのクラスでも



①校内研究授業のPDCAサイクルの充実による授業改善

1つめの柱の「校内研究授業のPDCAサイクルの充実による授業改善」に関しては、昨年度に引き続き、国語科の単元全体を通した言語活動を意識した授業の提案を行った。具体的には、昨年度の研究の課題も踏まえ、

- ・子どもたちの主体的な姿を重視して、子どもたちが目的を持って取り組む学習過程の工夫
- ・「知識・技能」の定着 ・対話の質の向上 に重点を置いた単元（授業）の提案を各学年で行うこととした。

また、昨年度に効果的であった、学年の担任団・学力向上担当者の共同研究体制や子どもたちの姿を見取り、授業改善の視点を共有するための全国学力・学習状況調査や学期末力だめし問題（4年生以上）の全教員による採点分析も継続して実施した。

②国語を要とした教科横断的な取組み・単元の提案

2つめの柱の「教科横断的な学習の提案」に関しては、国語科を要とした教科横断的な学習（単元）の提案の際に

- ・国語科で付けた力を活用する場を設定することで、付けた力の定着をはかる
- ・国語科で付けた力を活用することにより、他教科でつきたい力をより効果的に付ける

ことをねらいとして、各学年ごとに単元計画を立てることとした。



全国学力・学習状況調査の採点・分析を全職員で行いました。

(2) 取組み内容【国語科を要とした教科横断的な単元・授業の提案】

○教職員研修

令和2年度に入り、教職員も新たなメンバーでスタートした。昨年度の取組みをさらに深めるためにも全教職員でカリキュラム・マネジメントの意義をもう一度確認し、取組みを進めていく必要があると考えた。そこで、大阪教育大学教職大学院の田村知子先生をお招きし、カリキュラム・マネジメント研修を実施した。

研修ではカリキュラム・マネジメントの概要、意義に加えて教科横断的な学習の実践事例を紹介していただいた。また、4月当初に新たに作成した今年度の各学年のグランドデザインを元に、つけたい力（資質能力）に着目して単元間のつながりを見直す機会にもなった。研修を通して、教科間のつながりを再確認し、それをもとに各学年で教科横断的な学習に取り組んでいる。



○3年生の取組み〈社会科 + 国語科 の学習の提案〉

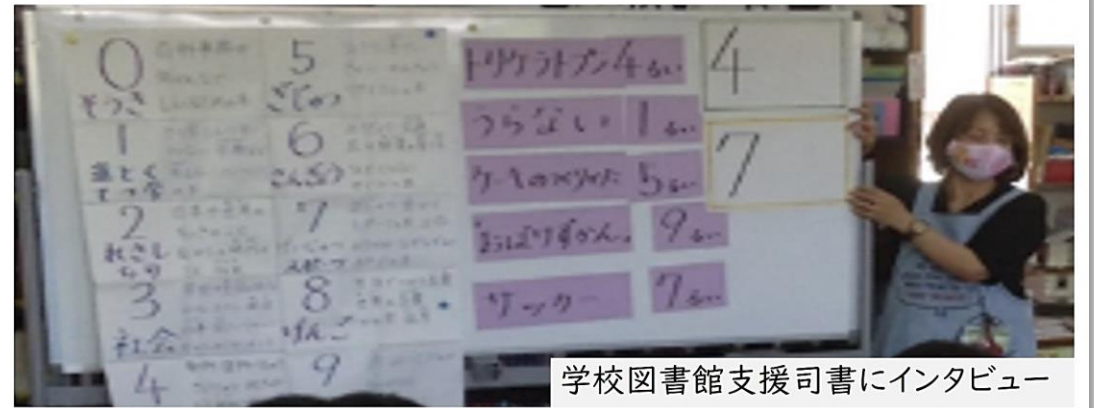
3年生では市内めぐりなど総合的な学習の時間も含めて、聞き取ったり調べたりしたことをメモし、考えたことをレポートの形式でまとめて報告する機会が多い。

そこで国語科の「図書館へ行こう」「メモをとりながら聞こう」「調べて書こう、わたしのレポート」の3つの単元を別々に行うのではなく、3つの単元をつなげて「インタビュー名人になって、一年生にわかりやすい図書だよりを書こう」という単元計画に再構成し「聞き取り→書く体験」という流れで学習することとした。（詳細は次ページ参照）



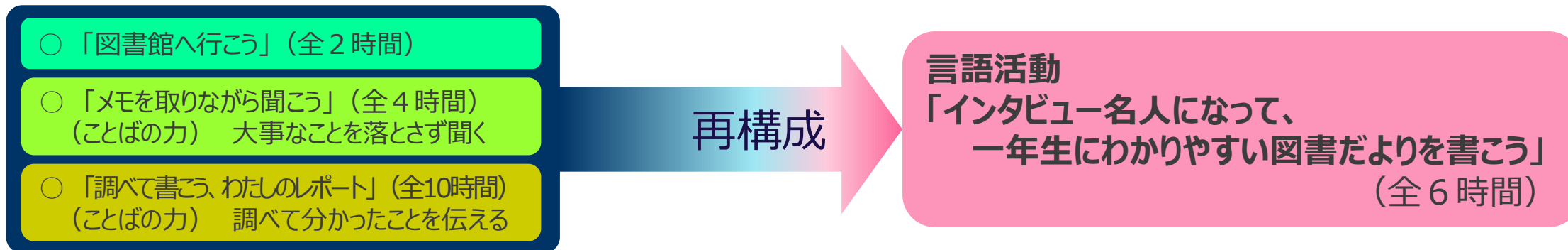
3年生の取組み
国語科でインタビューメモ名人をめざして学習しました。

ゴール	⑤	④	③	②	①	テーマ	学習の仕方
「一年生に くばろう」 図書館だよりを	学習して みについた ふりかえろう 力を	④ 一年生に わかりやすい 図書館だよりを かんせい させよう	③ 一年生に わかりやすい 図書館だよりを 書こう	② インタビューメモ名人に なろう	① 池田先生お助け大作せんや インタビューメモ名人について 知ろう	「インタビューメモ名人になって、 一年生にわかりやすい図書館だよりを 書こう」	学習の仕方



学校図書館支援司書にインタビュー

国語科の3つの単元の再構成について



【再構成のねらい】

①教科横断的に取り組むことで生まれる他教科の充実や国語科の定着・深化

⇒「（目的をもった）聞き取り」から「書く（まとめる）」の一連の思考の流れを体験出来るようにした。

国語科でつけたインタビューメモの力・メモから自分の考えをまとめる力を活用して他教科（社会や総合）の活動のスムーズ化・充実を図る。

②人的資源の活用による国語科の言語活動の魅力の向上

⇒国語科において、つきたい力をつけるために言語活動の魅力は重要な要素の一つであり、特に言語活動における相手意識や目的意識が重要であるため、本単元では

【相手】・・・図書館を利用したことがない1年生に 【目的】・・・図書だよりを書いて、図書館のきまりを伝えること。

と設定することで、子どもたちが主体的に学びに向かう姿につながった。また、学校図書館支援司書や栄養教諭など様々な先生方に協力してもらい、校外に出ることなく国語科の単元の中で実際にインタビューをすることで、子どもたちのイメージや定着がより深まった。インタビューの練習もCDではなく栄養教諭など様々な先生方に協力してもらうことで、子どもたちが主体的に学びに向かう姿につながった。

③3つの単元をつないで行うことで時間を生み出す

⇒3つの単元を別々に行うのではなく、つないで単元を構成することで、題材の設定や情報収集の時間をスリム化することができ、時間の精選を図ることができた。

学習の中で、子どもたちは明確な視点を持ち、必要なことを記録したり、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心をとらえて自分の考えを持つことができるようになってきた。また、コロナ禍において校外に出てインタビューをすることが厳しい時期ではあったが、栄養教諭や学校図書館支援司書という校内の人的資源を活用することで、校外に出ることなく校内でインタビューや聞き取りメモを書いたりすることができ、子どもたちのイメージや、力の定着が深まった。



栄養教諭と連携し、聞き取りメモを取る練習のための動画を撮影しました。

上記のような国語科で付けた力を活用する場面として、2学期の社会科の小単元「店で働く人々の仕事」でお店の人にインタビューし、メモする力を使う場面を設定した。このように、国語科で付けた力を生かすことで社会科の学習を効果的に行えるように単元計画を立て、学習を進めている。



国語科で付けた「インタビューメモ」を取る力を使って地域のスーパーで聞き取り活動をしました。

○ 5年生の取組み〈総合的な学習の時間 + 国語科 の学習の提案〉

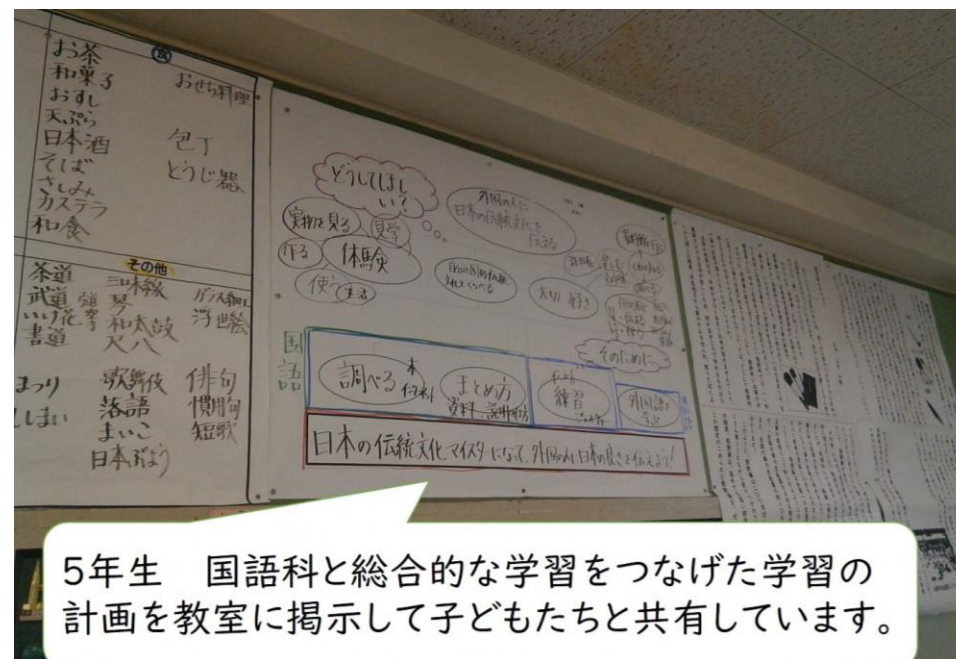
5年生では総合的な学習「日本の伝統文化マイスターになって、外国の人に日本の良さを伝えよう！」という単元を計画し、国語科の学習と結び付けて学習を進めてきた。

総合的な学習の時間では、日本の伝統文化の良さを知り、近隣の大学の留学生に、日本の良さを伝えるという目的を持って学習を進めた。総合的な学習に取り組む中で、子どもたちが、日本の良さを伝えるために自分が伝えたいことを詳しく調べたり、伝えたいことをより伝わるように書いたりする方法を学ぶ必要があることに気付いた。

そこで国語科の単元「和の文化について調べよう」の学習も同時並行で進め、「和の文化について調べよう」の単元で子どもたちが身に付ける「引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」や「目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりする」力を、総合的な学習の時間での情報収集やリーフレット作りに生かした。

今回の学習では、総合的な学習の時間において、児童は自分が調べた日本の伝統文化を伝える相手は外国からの留学生という相手意識を持っている。そのため、日本語でわかりやすいリーフレットを作成した後に、外国語を使って表現する必要性を感じていたので、国語科・総合的な学習の時間での取組みを踏まえ、外国語科と連携し、外国語の学習の充実を図った。

教科横断的な学習の単元計画作成においては、学力向上担当者が、要となる国語の授業作りの視点から学年の教員と共同で研究を行ったり、学校図書館支援司書や栄養教諭と連携したり、専科教科の担当者が学年の担任団とともに研究をするなど、教職員間のつながりを感じながら取組みを進めてきた。



(3) 2年間の調査研究の結果明らかとなった成果と課題

【成果】

○教員の意識の高まり

全教員が校内研究の意義を理解し、子どもたちの姿から効果を実感したことにより、全教員が校内研究の取組みを自分事と捉えることができた結果、子どもたちの資質・能力の向上や意識の変容に結びついた。

○児童の資質・能力の向上

PDCAサイクルを回し、校内研究体制の充実を図った結果、子どもたちの資質・能力が向上した。

○児童の意識の変容

全教員で国語科の授業改善の視点を大切にしながら校内研究を進めていく中で、子どもたちの国語科に対して主体的に取り組む姿にも変容が見られた。

●教員アンケートの肯定的回答の割合の変化

「対話を通して考え、豊かに学ぶ子」をめざし、授業改善を進め、子どもの変容が見られた			
	R1.6月	R1.3月	R2.3月
肯定的回答	87.1%	⇒ 95.8%	⇒ 100%

●「大阪府力だめしプリント 記述問題（学校平均）」の正答率の変化

	H30 (取組み前)	⇒	R1 (取組み1年め)	=	R2 (取組み2年め)
正答率	30%		39.7%		54.3%

●児童アンケートの肯定的回答の割合の変化

	R1.6月	⇒	R1.3月	⇒	R2.3月
「国語は好きですか」	54%		55%		65%
「授業で、うまく伝わるように工夫して自分の考えを書いたり、話したりしている。」	78%		68%		83%

【課題】

○国語科を要とした教科等横断的な学習のさらなる充実

令和元年度の実践を振り返る中で、国語科で付けた力を活かす機会を設定することにより、児童に国語科の力を定着させる必要性を感じたため、令和2年度は次の2点をねらいとして、国語科を要とした教科等横断的な学習の提案を各学年から行った。

- ① 国語科で付けた力を活用する場を設定することで、付けた力の定着をはかる。
- ② 国語科で付けた力を活用することにより、他教科で付けた力をより効果的に付ける。

取組みの結果、

- 児童アンケート「国語の授業でつけた力が、自分の考えをもつことやうまく伝えるために役立っている。」の肯定的回答が
R2年度1学期末 80% ➡ R2年度3学期末 83%
と増加したことから、取組みに子どもの実感を伴っていることがわかり、①については一定の効果が見られたといえる。

しかし、国語科で付けた力を他教科で活用させるような授業作りの提案をするという第1歩は踏み出せたが、②については検証が不十分であった。今後は、PDCAサイクルを回しながら、国語科を要とした教科横断的な学習の提案を続け、さらに取組みを充実させていく。

(4) 今後の見通し

○校内研究のPDCAサイクルの充実による授業改善の取組みについて

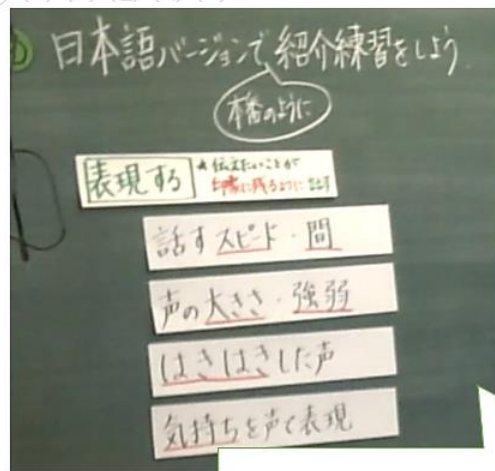
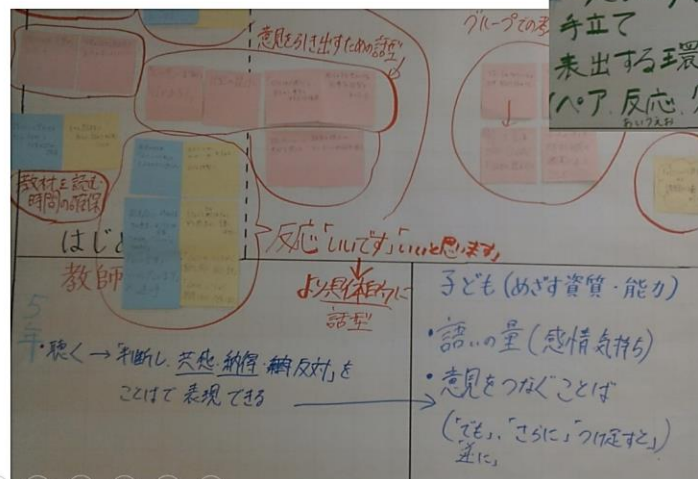
今年度の校内研究テーマに向けて、研究授業の準備を進めているが、コロナ禍において研究授業の参観の仕方を検討し、研究授業を記録した動画を少人数の学年グループに分かれて視聴することにした。初めての試みだが、動画で授業をみることによって、子どもたちの対話の様子を正確にとらえることが出来るという利点を生かし、記録した子どもの対話を分析することにより、子どもの対話の質を高めていきたい。

○教科等横断的な学習の提案に関する取組みについて

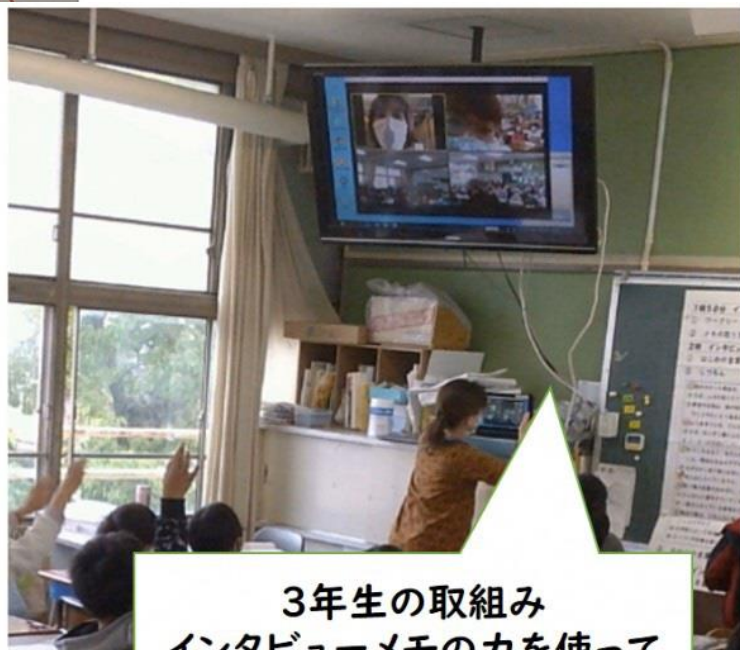
前ページの②の点に関して「何を、どのように見取るのか」という視点を明らかにし、資質・能力を育成していくことと同時に、子どもたちも教員も「やってみたい」「挑戦してみよう」という主体的な姿が生み出せるような授業づくりに挑戦していきたい。今後も、各学期に実施する児童アンケートや、国語科力だめしテストの結果から、教科等横断的な学習の効果を検証していく。

対話の質の向上をめざして

子どもたちの対話の姿を見取り
これからの取組みを検討



5年生の取組み
国語科でつけた力を生かした
総合的な学習



3年生の取組み
インタビューメモの力を使って
実際にZoomインタビュー

教科横断的な学習の提案を各学年で